



## 1 計画の趣旨

### (1) 計画策定の背景

本市では、平成 29 年 2 月に「養父市文化会館(仮称)建設基本構想」を、同年 12 月に「養父市文化会館(仮称)整備基本計画」を策定し、『人と文化と郷土をつなぎ、未来を創る学びと交流の拠点』をコンセプトに、新しい養父市の顔となる文化会館(仮称)の整備を行っています。

本計画は、約 650 席を有するホール、図書館や広大なオープンスペースなどを有する複合施設としての文化会館(仮称)ができるにあたり、市が進めるべき文化芸術施策、文化会館(仮称)の基本的な利活用の方針、そして推進体制に対する指針として策定するものです。

### (2) 養父市の文化芸術施策

養父市には、各地域にそれぞれ公民館、ホール、そして図書室があります。

これらの施設を活かしてビバホールチェロコンクールや木彫フォークアート、せきのみや子ども歌舞伎など、市民や団体が積極的に情熱をもって様々な芸術や伝統芸能の推進に取り組んできました。

そのほか、有名高校の吹奏楽部の演奏会や大学の合宿を兼ねたクラシックコンサートなど芸術の提供なども行ってきました。

### <4 公民館活動状況>

	八鹿公民館 八鹿文化会館 (座席数 876 席)	養父公民館 ビバホール (座席数 336 席)	大屋公民館 おおやホール (座席数 155 席)	関宮公民館 ノビアホール (座席数 362 席)
ホールの 分野別利 用件数の 状況	音楽芸能等 15 回 講演会大会 15 回 練習準備 32 回 展示その他 0 回 利用者数 16,886 人	音楽芸能等 25 回 講演会大会 14 回 練習準備 49 回 展示その他 3 回 利用者数 10,655 人	音楽芸能等 15 回 講演会大会等 2 回 練習準備 96 回 展示その他 27 回 利用者数 8,309 人	音楽芸能等 14 回 講演会大会等 4 回 練習準備 72 回 展示その他 8 回 利用者数 4,794 人
公民館利 用状況	件数 2,729 件 利用者数 60,020 人	件数 1,913 件 利用者数 30,578 人	件数 418 件 利用者数 9,081 人	件数 532 件 利用者数 6,049 人
教室講座 (一般)	開設数 7 講座 延べ受講者 253 人	開設数 2 講座 延べ受講者 27 人	開設数 2 講座 延べ受講者 63 人	開設数 4 講座 延べ受講者 41 人
図書室の 利用	利用人員 4,984 人 貸出冊数 16,439 冊	利用人員 4,198 人 貸出冊数 12,820 冊	利用人員 1,561 人 貸出冊数 5,181 冊	利用人員 1,695 人 貸出冊数 5,476 冊
特色ある 主な事業	ようか芸能祭 養父市吹奏楽祭 ようか JAM	チェロコンクール ダンス教室 ロボカップジュニア	木彫フォークアート 星と森の音楽会 こども和太鼓教室	せきのみや子ども歌 舞伎 風太郎祭

H30 年度実績

### (3)地域を取り巻く環境の変化

令和2年の新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、ソーシャルディスタンス意識の普及やオンラインへの急激な移行など、今後人の移動や行動など生活そのものが変わっていく可能性があります。人を集めるということが効率的で良いとされていたこれまでから、オンライン等を活用した仕事の在り方も含め、都市と地方の差が埋まるなど居住の分散が進むかもしれません。

先端技術を使い、世界と「出会い、つながる」ことで、移動時間が削減され、地方のデメリットが解消される等、地方創生の実現につながるものと考えます。

文化芸術分野においては、人口減少、少子高齢化が進行し、集客だけでなくスタッフや活動団体・人員の確保が課題となっています。一方で、人々の価値観やライフスタイルの多様化、IT化の進展等、社会変化が急速に進む中であって、文化芸術に気軽に触れられる環境の整備等による心豊かな社会の形成はますます重要となっています。

### (4)養父市総合計画における位置付け

養父市では、平成23年6月に「第2次養父市総合計画」を策定しました。

まちづくりの5つの柱の一つである『「生きる力」を生涯学ぶまち』において、「生涯学習・次世代育成の環境づくり」を施策として挙げ、生きがいや楽しみ、誇りを持って生きる力を生涯学ぶことができるまちづくりを進めています。また、『人と自然と文化を活かし、多くの人を訪れるまち』においては、「文化・芸術の継承と育成」を施策とし、優れた芸術鑑賞の場の提供により地域文化の振興を市民参画と協働により進めています。

令和2年度に策定する新しい総合計画においても文化芸術施策の推進について

### (5)「養父市文化会館(仮称)建設基本構想事業方針

新しい文化会館(仮称)は「養父市文化会館(仮称)建設基本構想」に基づき建設されています。

事業方針は

- 1 文化芸術振興の場
- 2 生涯学習の場
- 3 情報発信の場
- 4 まちづくりの場
- 5 市民の憩いの場

であり、質の高い文化芸術の鑑賞や市民の活動の場、まちづくりの場、図書館における情報の提供、そして誰でもいつでも立ち寄れるような憩いの場として、複合的

な役割を持つ拠点施設となります。

文化芸術を教育分野や福祉分野、事業者等の各活動主体をつなぎながら、多様な交流を生み出しながら未来へとつないでいく拠点として、活用します。

#### **(6)計画期間**

本計画は令和3年〇月から令和〇年〇月までの〇〇年とします。

## 2 養父市の文化芸術施策の方向性

本市が、文化芸術に関して本計画を策定する趣旨は、このまちが、文化芸術が身近にあり人々が集うまちにしたいという思いから、新しい文化会館(仮称)がオープンするという大きな機会を活かしたいからです。都市と地方という居住地の違いや、経済的な観点から、触れあえる文化芸術に大きな差を生まないためにも、行政による文化芸術施策の充実は不可欠と言えます。

養父市ではこれまで、ビバホールチェロコンクール、木彫フォークアート、子ども歌舞伎などを始めとした文化芸術施策の振興に取り組んできました。

福祉施策、産業経済施策、公共インフラ整備、防災対策などの諸施策に比べると、文化芸術施策に対する優先順位は緊急度の観点からそれほど高くなかったというのが実情ですが、合併以降の厳しい財政事情にあってもこれらの事業をはじめ文化芸術の重要性を認識し、可能な限り積極的に継続、実施してきました。それは、市民や関係団体の方々が積極的に、情熱をもって取り組んできたものでもあり、現在の養父市に住む人々の大きな願いと希望ともいえるものです。

また、文化芸術は教育施策とも言え、養父市の子どもたちが文化芸術に恵まれた環境の中で育つことで、豊かな創造力や想像力、コミュニケーション能力が育ち、将来、子ども達一人ひとりが大きく美しい花を開かせていくことは、この地域に住む私たちの大きな願いでもあります。そのための土壌づくりでもあるのです。

子どもたちに様々な文化芸術に触れられる機会を提供しつつ、関心を持ったときには次なる機会の提供や体験が可能になるなど、先へつながっていくことを大切にしたいと考えています。今いる人だけでなく、次世代への刺激につなげ、長い取組の中で養父市から素晴らしいアーティストが育つこともあるかもしれません。そのような可能性を大事に育てることが必要ではないかと考えます。

これは時間がかかるものではありませんが、時間がかかるからこそ行政が取り組んでいく必要性は高いと言えます。

このような観点から、本市では地方創生実現に向けて、文化芸術施策を随所に盛り込み、長期的に取り組んでまいります。

### 3. 文化会館(仮称)を新たな出会いの場として

#### (1)鑑賞の場

養父市民が文化芸術を鑑賞する機会について考えると、民間事業者にとって採算がとりにくい本市のような地域にあっては、文化芸術に係る興行の数も場も少なく、都市部と比較した時に地域格差が生じることは否定できません。そのため、行政が質の高い文化芸術へのアクセスを確保する必要があります。

どのような文化芸術の鑑賞の場を提供するのが相応しいのか考慮し、例えば小さくても毎月のように親子で楽しめるコンサート等を行っていくのか、回数は少なくとも但馬圏域から集客できるレベルのコンサートを行うのか、施設のポテンシャルを最大限に活かしつつ、限られた予算の範囲でバランスをとりながら鑑賞の場の確保に取り組んでいきます。そして、養父市の文化芸術分野にとって目玉となる事業を提案し、育てていきます。

#### (2)学びの場

文化会館(仮称)は養父市で初めて、市民の知の創造拠点として図書館が整備されます。

この図書館は誰にも開かれた滞在型施設となるよう整備されており、読み聞かせや落ち着いた閲覧ができるような空間づくりに配慮します。

同時に学校教育の援助や家庭教育の向上に資するよう児童向け図書の充実や、養蚕等の養父市の歴史資料を収集するなど、あらゆる世代が訪れ、養父市の歴史文化に触れられる図書館を目指します。

また、ワークショップや講座を開催し、人々が集まり、学び、出会いと交流を深めていけるような場所としていきます。

#### (3)憩いの場

文化会館(仮称)は、文化芸術を介して、また多様な活動により人々が集い、学び触れ合うことによりさらに多様な交流を生み出し人と人をつないでいく拠点として建設されたものです。

人は「家庭」「仕事」「学校」「SNS」など、いくつかの居場所をもちながら生活していると思います。今回、この文化会館(仮称)もその中のひとつとして提供したいと考えています。図書館をはじめ、魅力的な講座やイベントの開催により、多くの人々がこの施設を利用していただくことで、コミュニティーを築くなど新しい自分の居場所となることを目指します。

また、市内の高校と駅の間にある立地から、市内外の高校生をはじめとする学生たちが利用し、家庭や学校以外の居場所の一つとして自由に勉強や交流等ができるよう

な、いわゆる「たまり場」となる施設にしたいと思います。その環境整備として図書の実や Wi-Fi 整備、飲食の提供、また芝生広場等の適切な維持管理に努めます。

#### (4)過去と未来を結ぶ場

養蚕産業が盛んであった当地域にとって、文化会館(仮称)の建設地である旧グンゼ八鹿工場は養蚕業のシンボルでもありました。また、近隣の住宅地には養父市の偉人である池田草庵先生が青谿書院に移るまでの間、私塾をしていた立誠舎があります。

新しい文化会館(仮称)は、現在の養父市の文化を作った源流となる場所にあり、将来にわたって文化や伝統をつなぎ、そして新しい文化を形作っていく役割を担うものです。

同時に、文化会館(仮称)に人が集まることで、にぎわいが周辺地域へ波及していくことを期待するものでもあります。

過去から未来へ、また周辺地域へと、縦軸と横軸をつなぐ拠点となることを目指します。

#### (5)出会いと賑わいの場

文化会館(仮称)の有するそれぞれの機能をただ個別に活用するだけではなく、複合施設としてのメリットを最大限活用することが重要です。例えば図書館で音楽や朗読、広場を使ったイベントなど、養父市でこれまでになかった新しい組み合わせや取組にも挑戦していきます。

いつ行っても何か楽しそうなことをやっているな、と来館者に思ってもらえるような場として、また来館者にとってそれまでの生活上になかったものやことに出会える場にしていきたいと思います。

人が集まり、にぎわいが生まれ、そしてイベント等が行われ、また人が集まるような好循環を生む、そんな施設を目指します。

そのために、行政だけでなく個人や団体等が自分たちの活動を楽しみ、さらに広げてもらえるような働きかけを行っていきます。

### 3. 推進体制

#### (1)市の体制

市文化会館（仮称）を最大限活用し市の文化芸術施策の実施を図るために組織の改編を行います。

これに伴い、これまでの公民館と地域局との業務分担の見直し、適切な人員配置などを行い、文化芸術施策の実施体制を整えます。

また、組織体制だけでなく予算面でも、従来のように単年度毎に予算を計上し事業展開するものではなく、翌年度の事業まで予定するなど、従来よりも長期的に企画できるように工夫していきます。そして、予算内で事業展開するだけでなく、できる限り行うべき事業内容から予算要求するようにします。

#### (2)専門家の配置

これまで文化会館における運営事業は、市民の皆さんから提案をいただいたり、市職員自らが考えたり、場合によっては関係機関の協力を得ながら文化芸術の提供をおこなってきました。

今回、新しい文化会館（仮称）を効果的・効率的に運用し、質の高い文化芸術を提供するためには、コンセプトの設定、提供する芸術の分野の情報収集、演目設定、効果的なPRなどの経験や知見に加え、その分野における人脈を有するなど、これまでにはない専門的な人材が必要と考えています。

また、文化会館（仮称）は多くの機能を有する複合施設であることから、施設のポテンシャルを発揮するため、施設活用・空間利用や、イベント実施によるにぎわい創出など、多くの人が集まり、出会う場所とするための企画力なども必要です。

当面は、上記効果と財政面のバランスを見極めつつ、これらの専門家を国・県・文化教育機関などと連携を図り外部から招聘しながら事業展開していき、そして将来的には、職員がその役割を担えるよう育てていきたいと考えています。

#### (3)市内の4つの公民館・ホール

前述のとおり、養父市には文化会館（仮称）を含め4つの公民館・ホールがあります。それぞれ規模が異なり、活動も各地域局で取り組んでいるところです。

今後、それら4つの公民館・ホールは新体制のもとで、本市の文化芸術施策の実現の場として捉え、地域の特色や施設のこれまでの活動などを踏まえて、施設ポテンシャルを最大限に活かし、市民の皆さんと連携協力しながら効果的・効率的に運営し活用していきます。

#### **(4)市民、団体等との連携**

文化会館（仮称）では、音響や照明などに最新の機材を用意し、最高の舞台を提供できる環境があります。

これらの機材を最大限に発揮するためには、技術スタッフが不可欠です。また、文化芸術施策の推進は、市民のみなさんと一緒に創り上げていくことが重要な意味を持つと考えています。

そのため、ステージオペレータースタッフ組織の強化と育成を念頭に置きつつも、若い世代が気軽に参加できる環境を整えていきます。

そして、この施設は市民の皆さんに、何度も何度も利用していただき、出会い・ふれあい・学ぶ施設であることを目指していきます。

【 】具体的な事業展開